

『今に甦った古代の絵柄』

～「装飾古墳館とのコラボレーション」製品作りの取り組み～

熊本県立ひのくに高等支援学校

『愛生祭』コラボ製品販売

平成27年2月22日（日）、本校文化祭「愛生祭」が開催された。ステージ発表、専門学科の製品販売等があり、今年も地域の方々を含め、多くのお客さんがおいでになり賑わいを見せる一日となりました。今年は、例年とは違って専門学科の窯業科とクリーニング科（皮革工芸）の各々の製品を販売する会場の一角に装飾古墳館とのコラボレーション製品が並んだ。今回は、限定した数ではあったが、各会場に並んだ皮革製品約20点、窯業科製品約120点（カップ、皿）は、「愛生祭」直前の新聞報道もあって、販売開始後興味を持って買っていただき、ほどなく完売となりました。



＜「愛生祭」での販売の様子＞

このコラボ製品を見ているとその製品が日常生活の中で使われ、使っている人がその製品を見ながら「これはいいでしょう」、「いいですね」という会話が聞こえ、微笑みが浮かぶ姿が想像できそうになります。

『試作・企画展に向けて』

さて、このコラボレーション製品ができあがるまで少し時を遡ることにします。



＜「窯業科」での製作の様子＞

昨年（平成26年度、1学期）、県立装飾古墳館から依頼を受け、すぐに試作を始めたのが7月。古墳館のパンフレット等を参考に生徒が製作しやすい図柄、現在本校の中心図柄になっている「くまモン」を活かした図柄の2点で考えることになり、曲玉や銅鏡を取り入れた図柄を試作しました。その後、その試作品を元に装飾古墳館の担当者との打ち合わせ、職員の装飾古墳館見学、生徒向けの装飾古墳館副館長の「装飾古墳館についての話」等を経て、11月からの装飾古墳館での企画展示「今に甦った、装飾古墳の絵柄たち」（～ひのくに高等支援学校の試み～）に向け、有名な「チブサン古墳」絵柄と色＜赤、白、青（黒）＞を基本に曲玉、銅鏡、古代人等の図柄を自由に配置、色づけして大きな物は、30cmの花瓶まで約80点を製作しました。この製作をする中で生徒から「自分で図柄をデザインして色塗りするなど新しいことができて楽しかった。」「普段の図柄と違っておもしろかった」などの感想が出てきました。

今回装飾古墳の絵柄を元に製作した本校の製品を見ていると「いにしへの絵柄」が現代でも通用し、現代風で新しさを感じとても良い製品ができあがりました。

『コラボレーション製品』製作

「チブサン古墳」の絵柄を中心に装飾古墳館の企画展に向けての製作を始めた頃から製品として一般向けに販売をという話が出ていたり、「くまもと物産フェア」での試作品の展示や装飾古墳館での「企画展」でこの製品を見られた方から「この製品がほしい」と要望される話があったりしました。

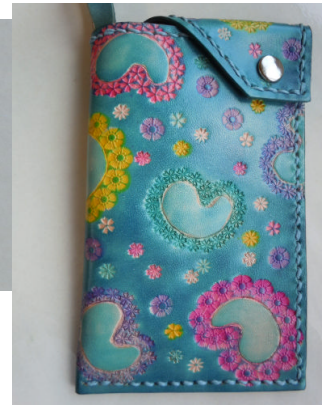
そこで、これまでに取り組んできた生徒の感想や通常作っている製品よりも1個完成するのに時間と手間が掛かるこの製品を製作をしている生徒の様子等から、卒業後の就労(社会自立・職業自立)を目指し、専門学科の時間を中心に「働く力」を身につける本校の生徒にとって「工夫し考える力、集中力・持続力、成就感、働く意欲等」を十分に育てていける作業工程になると考えました。また、生徒が製作するこの製品の良さを是非知ってもらいたいと思い、窯業科、クリーニング科(皮革)の2・3年生と共に本校文化祭「愛生祭」での販売に向け、昨年12月より製作を始めました。始めたばかりで十分な数はできあがりませんが、「装飾古墳の絵柄」をモチーフに生徒が製作した「今に甦った古代の図柄」(コラボレーション)製品を是非見ていただくと幸いです。



「フリーカップ」
(チブサン古墳絵柄)
<「窯業科」製品>



「キーホルダー」
(銅鏡イメージ)



「携帯ケース」
(曲玉モチーフ)

<「皮革」製品>